



第44期 事業報告書

平成17年4月1日～平成18年3月31日



株式会社エフピコ

東証・大証
証券コード：7947

株主のみなさまへ



平成18年6月

代表取締役社長

小松安弘

株主のみなさまには、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

ここに、当社第44期の営業の概況と決算の状況につきましてご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国の経済は、原油価格の高騰により先行き不透明感はあるものの、輸出や設備投資の増加により企業収益が高水準で推移し、緩やかな景気回復基調となり個人消費にも明るさが見えてまいりました。

当業界におきましては、原油需給に対するタイト感や昨年来の世界的な原油・ナフサ価格の高騰により、当社製品原料であるスチレンモノマーをはじめ、ポリスチレン樹脂等の価格の高止まりが続いており、完全な回復基調に入ったとは言えない厳しい状況が続いております。

このような状況下、当社グループはトータルコストの削減及び企業体質強化にグループ全社をあげて取り組み、高付加価値製品や新機能製品の開発による成長戦略を推進してまいりました。また、原材料価格高騰による製品原価の上昇に対しましては、生産技術向上及び素材の薄肉化・製品の軽量化による生産コスト削減、生産拠点の最適化・需給バランスの改善などによる物流コスト削減に加え、あらゆる部門のコスト削減に努めてまいりました。

① 営業面におきましては、エフピコフェアを一時休止し、新たに商品提案会を北海道から九州まで全国7か所で延べ12回開催、平成18年2月以降は「エフピコミニフェア」として、全国6か所で開催いたしました。すぐにも実践できる“売り場”のご提案を集中的によりスピーディーに行っております。

また、中食市場の拡大にともない、「ウエーブ」・「やすき」・「フチ皿」に加えて「芝皿」・「芝舟」などの新デザイン容器も順調に推移しており、更に、“ワンタッチ嵌合”で作業性と保湿性を強調した「SA-400シリーズ」も販売量を拡大し、ロースタックトレイの拡販も続いております。一方、商品につきましては、利益改善の為、商品構成の見直しを行ってまいりました。

② 生産面におきましては、品質の向上はもとより、更なる生産性の向上に取り組んでまいりました。加えて、東日本の需要の拡大に備え生産供給拠点との最適化を図ってまいりました。

③ 物流面におきましては、サプライチェーンマネジメント（SCM）システムを有効に機能させ、需要に即した供給体制の構築に努め、横持ち・保管にかかわるコストの低減を進めてまいりました。

④ 環境面におきましては、「エフピコ方式（トレーtoトレー）」の循環型リサイクルを更に押し進め、エコトレイの販売を拡大していく一方、容器の軽量化・ロースタック化はもとより、効率的な物流によりトラック台数を減少させ、地球温暖化ガスの削減にも努めてまいりました。平成17年9月には、当社グループの環境社会活動レポートの初版「環境・社会活動レポート2005」を刊行し、ステークホルダーの皆様にご覧いただき、配布させていただきました。一方、愛知万博において当社の環境活動に対する貢献が認められ「愛・地球賞」を受賞いたしました。平成18年2月には「環境5ヵ年計画」を策定し平成22年の目標達成に向けて活動を実施しております。

以上のとおり取り組んでまいりました結果、当期の連結売上高126,815百万円（前期比2.1%増）、経常利益は6,656百万円（前期比83.2%増）、当期純利益は3,686百万円（前期比51.2%増）となり過去最高益を達成いたしました。

なお、当社グループの販売品目別の売上高概況は次のとおりであります。

分 類	主 要 品 目	売 上 高	構 成 比	前 期 比
製 品	ト レ ー 容 器	28,253 ^{百万円}	22.3%	103.4%
	弁 当 容 器	60,460	47.7	107.6
	そ の 他 製 品	1,529	1.2	121.9
	小 計	90,244	71.2	106.4
商 品	包 装 資 材	24,758	19.5	89.5
	そ の 他 商 品	11,813	9.3	100.9
	小 計	36,571	28.8	92.9
合 計		126,815	100.0	102.1

企業集団が対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、雇用情勢の好転や個人消費の動向に明るさが見えるものの、依然として予断を許さない状況が続くものと思われま。

また、当社製品の原材料価格につきましても、世界的な原油需給の逼迫感が続き、更なる原材料価格の値上げが懸念されます。

当社グループといたしましては、これまでに行ってきた基盤整備強化の成果を踏まえ、よりコスト競争力のある、安定した利益を確保しうる強固な企業体質の形成を目指してまいります。

また、当社グループの経営方針の実現および目標とする経営指標を達成するために、確固たる経営基盤づくりを進め、グループ各社が互いに連携して、「食品容器を通じて、お客様の快適な食生活を創造する企業グループ」を目指し、以下の施策に取り組んでまいります。

① 提案型企業の実現

市場の品質に対する要求の高まりや中食市場の需要拡大を背景とした食環境の変化を先取りし、お客様のニーズに合った製品開発を行い、容器を通じて売り場の差別化を図ってまいります。

お客様への情報発信拠点として、東京本社でのキッチンスタジオを活用し、売り場提案及び流通合理化提案等を行うとともに、全国各地で「エフピコミニフェア」を開催し、提案型営業の質とスピードを高めてまいります。

② 環境経営の実施

当社グループは、環境方針として、「地球環境の保全」を基本理念に掲げ、環境マネジメントシステムを確立し、実行推進しております。

循環型リサイクル「エフピコ方式（トレーtoトレー）」を確立したエフピコならではの環境への取り組みを更に推し進め、業界を牽引する各種施策を実施してまいります。

また、京都議定書の発効を受け、容器の軽量化・ロースタック化はもとより、効率的な物流によりトラック台数を減少させ、二酸化炭素を含む地球温暖化ガスの削減など、平成22年を達成年とした「環境経営5ヵ年計画」を実行してまいります。

③ SCMによる供給体制の整備

需要予測から最適生産・物流に至るまでをカバーするサプライチェーンマネジメント(SCM)システムにより生産・物流の適正シミュレーションを行い、生産工場等のスクラップ&ビルドも念頭に置いて、トータルコストの更なる最適化の実現を目指し生産及び物流体制の整備に取り組んでまいります。

④ 高精度な物流サービスの提供

グループ会社の運営による「東日本ハブセンター」を活用し、お客様へより高い次元で合理化された物流サービスの提供を実施するとともに、クリーンな環境で、誤出荷などの顧客クレーム10ppm（100万分の10）を目標として、鋭意努力してまいります。

⑤ 生産の技術革新と新製品開発のスピードアップ

生産性を高めることはもとより、最新鋭の生産設備への更新により、高品質かつ付加価値の高い製品を開発してまいります。また、素材の薄肉化、製品の軽量化などによりコスト削減を図ってまいります。更には、新製品の開発スピードを早めることで、お客様のニーズに対応してまいります。

⑥ トータル品質の向上

生産からお客様へお届けするまでをトータルで提供する企業として、更なる品質の向上を図ってまいります。生産面におきましては、原料から成型・検品までの物作りの過程、物流面におきましても、在庫から荷捌・配送と、最終的にお客様へお届けするまでのあらゆる工程の品質向上施策を実施してまいります。

⑦ 知的財産権の強化

当社の独自性・差別化を市場においてより確実なものとするため、特許や実用新案・意匠登録等の申請を進め、知的財産権の取得により企業価値を高めてまいります。

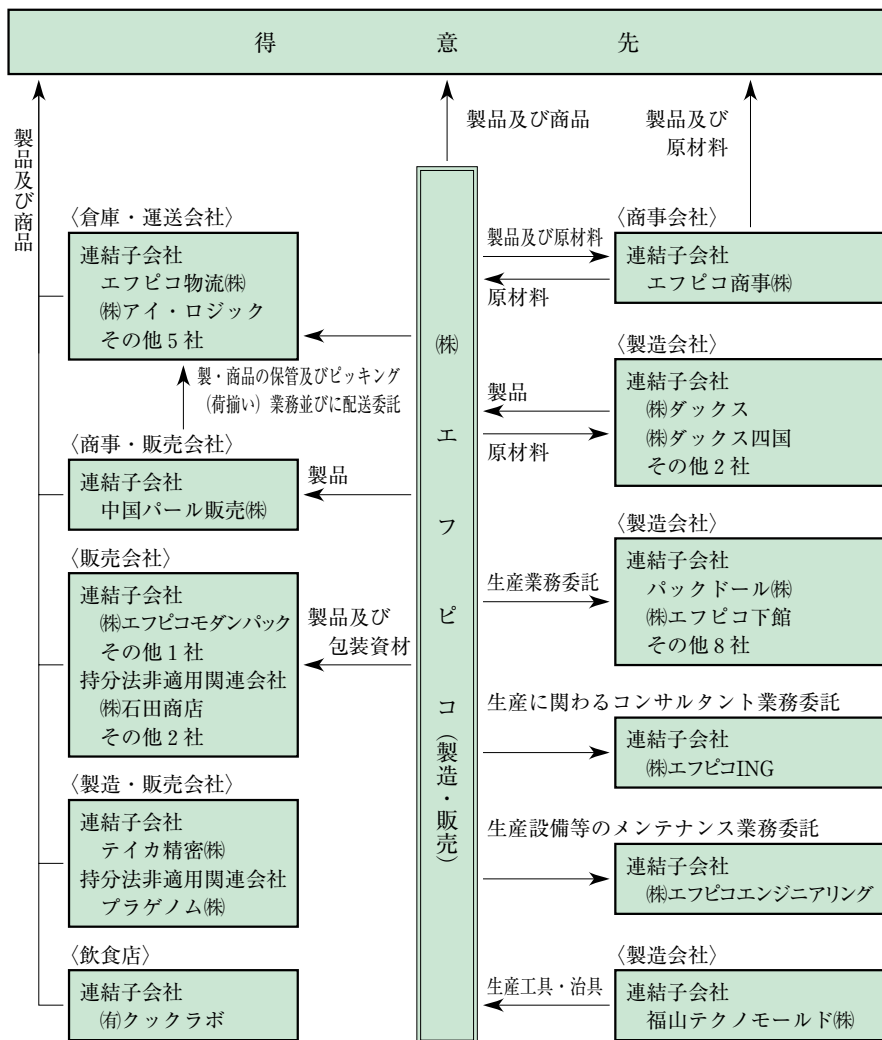
以上の施策を通じて、食環境の一翼を担う企業としての責任を果たすべく、製品開発力・販売力の強化および品質・生産性の向上を図るとともに、物流サービスの向上及びコストの低減に努めてまいります。

株主のみなさまには、何卒、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

企業集団の状況 (平成18年3月31日現在)

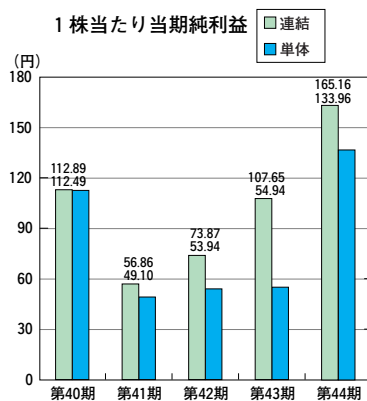
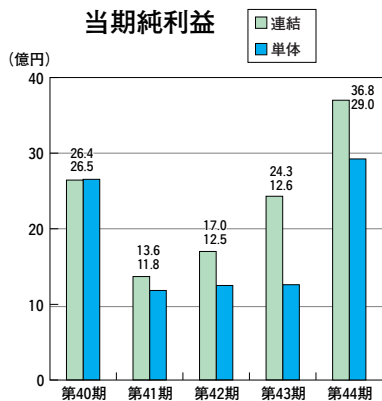
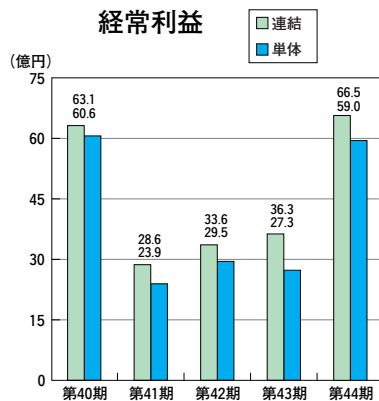
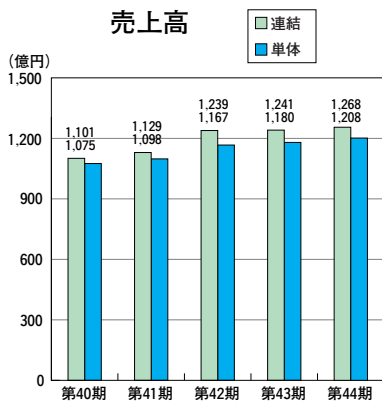
当社グループは、当社、子会社30社及び関連会社4社により構成されており、「簡易食品容器関連事業」を主たる事業としており、トレー容器・弁当容器等の製造販売を中心として、その販売に付随する包装資材及び包装機械等の販売も併せて行っております。

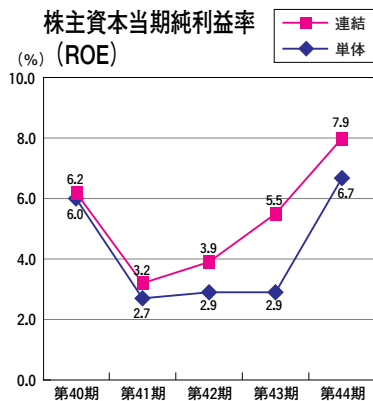
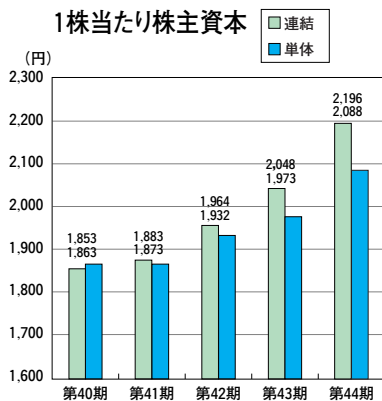
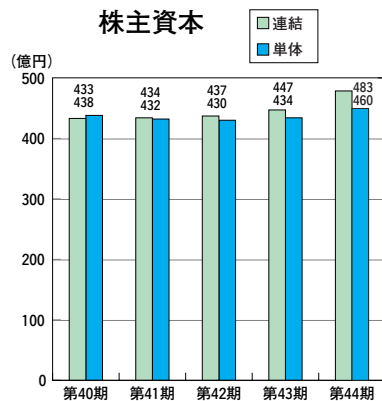
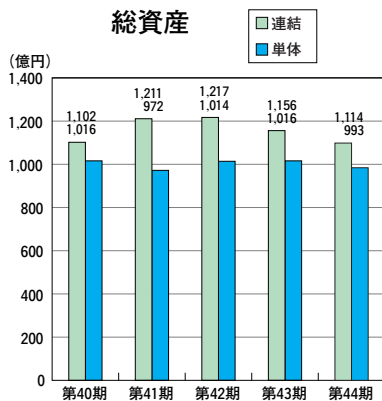
事業の系統図は、次のとおりであります。



(注) パックドール(株)は、平成18年7月1日に商号を株式会社エフピコ山形に変更予定であります。

業績の推移





次期の業績の見通し

次期の連結業績は、次の通り予想しています。

連結売上高

1,296億円

連結経常利益

78億円

連結当期純利益

43億8千万円

1株当たりの当期純利益

199円10銭

連結貸借対照表 (平成18年3月31日現在)

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	52,738	流動負債	48,776
現金及び預金	8,427	支払手形及び買掛金	18,656
受取手形及び売掛金	28,385	短期借入金	22,586
たな卸資産	12,261	未払金	3,124
繰延税金資産	710	未払法人税等	1,796
短期貸付金	1,101	未払消費税等	528
未収入金	1,808	賞与引当金	782
その他	252	その他	1,301
貸倒引当金	△ 209	固定負債	14,197
固定資産	58,673	長期借入金	11,396
有形固定資産	45,527	繰延税金負債	63
建物及び構築物	20,340	退職給付引当金	1,119
機械装置及び運搬具	2,847	役員退職慰労引当金	294
土地	19,774	連結調整勘定	482
建設仮勘定	45	その他	842
その他	2,518	負債合計	62,973
無形固定資産	1,640	(少数株主持分)	
連結調整勘定	34	少数株主持分	53
その他	1,606	(資本の部)	
投資その他の資産	11,505	資本金	13,150
投資有価証券	4,226	資本剰余金	15,487
長期貸付金	4,557	利益剰余金	19,041
繰延税金資産	152	株式等評価差額金	1,016
その他	2,953	自己株式	△ 311
貸倒引当金	△ 383	資本合計	48,384
資産合計	111,411	負債、少数株主持分及び資本合計	111,411

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)

(単位:百万円)

科 目		金 額	
経常 損益 の 部	営業収益		126,815
	営業費用		
	売上高	94,841	
	販売費及び一般管理費	25,867	120,708
	営業利益		6,107
	営業外収益		
	受取利息及び配当金	201	
	仕入割引	83	
	受取賃貸料	105	
	受入手数料	133	
連結調整勘定償却額	136		
その他	229	889	
営業外費用			
支払利息	259		
その他	81	340	
経常利益		6,656	
特別 損益 の 部	特別利益		
	固定資産売却益	5	
	受取保険金	18	
	投資有価証券売却益	110	
	債務早期弁済益	115	
	貸倒引当金戻入益	174	424
	特別損失		
	固定資産除却売却損	76	
	減損損失	185	
	災害損失	18	
	投資有価証券売却損	19	
投資有価証券評価損	5		
たな卸資産処分損	534		
過年度更生債務免除益修正額	58	898	
税金等調整前当期純利益		6,182	
法人税、住民税及び事業税	2,469		
法人税等調整額	16	2,485	
少数株主利益		10	
当期純利益		3,686	

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結剰余金計算書 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)

(単位:百万円)

科 目	金 額	
(資 本 剰 余 金 の 部)		
資 本 剰 余 金 期 首 残 高		15,487
資 本 剰 余 金 期 末 残 高		15,487
(利 益 剰 余 金 の 部)		
利 益 剰 余 金 期 首 残 高		16,409
利 益 剰 余 金 増 加 高		
当 期 純 利 益	3,686	3,686
利 益 剰 余 金 減 少 高		
配 当 金	811	
役 員 賞 与	47	
(うち 監 査 役 賞 与)	(5)	
自 己 株 式 処 分 差 損	195	1,054
利 益 剰 余 金 期 末 残 高		19,041

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
税金等調整前当期純利益	6,182	有形・無形固定資産の取得による支出	△ 2,022
減 価 償 却 費	3,964	投資有価証券の取得による支出	△ 112
減 損 損 失	185	投資有価証券の売却による収入	693
貸倒引当金の減少額	△ 178	短期貸付金の純増加額	△ 99
退職給付引当金の増加額	120	長期貸付金の貸付けによる支出	△ 225
債務早期弁済益	△ 115	長期貸付金の回収による収入	781
受取利息及び受取配当金	△ 201	そ の 他	△ 43
支 払 利 息	259	投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,028
投資有価証券売却益	△ 91	短期借入金の純減少額	△ 5,200
売上債権の増加額	△ 443	長期借入れによる収入	6,915
たな卸資産の減少額	4,330	長期借入金の返済による支出	△ 7,766
未収入金の減少額	549	自己株式の売却による収入	365
仕入債務の減少額	△ 1,792	配当金の支払額	△ 806
その他の流動資産・負債の増減額	358	更生債務の弁済による支出	△ 1,560
未払消費税等の減少額	△ 209	そ の 他	△ 7
そ の 他	35	財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,059
小 計	12,956	現金及び現金同等物に係る換算差額	0
利息及び配当金の受取額	204	現金及び現金同等物の増加額	2,427
利息の支払額	△ 261	現金及び現金同等物の期首残高	5,993
法人税等の支払額	△ 1,383	現金及び現金同等物の期末残高	8,421
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,515		

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表 (単体)

(平成18年 3月31日現在)

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	46,296	流動負債	41,278
現金及び預金	7,521	支払手形	2,367
受取手形	9,718	買掛金	14,495
売掛金	15,220	短期借入金	5,122
商製品	369	一年内返済予定の長期借入金	12,825
製製品	7,734	未払金	3,212
半製品・仕掛品	486	未払法人税等	1,689
原材料	935	未払費用	481
貯蔵品	310	賞与引当金	300
未収入金	1,265	設備関係支払手形	231
繰延税金資産	464	その他	551
その他	2,393	固定負債	12,030
貸倒引当金	△124	長期借入金	10,682
固定資産	53,018	退職給付引当金	885
有形固定資産	37,828	役員退職慰労引当金	271
建物	15,676	繰延税金負債	80
構築物	701	その他	110
機械及び装置	2,375	負債合計	53,308
車両運搬具	46	(資本の部)	
工具器具備品	1,600	資本金	13,150
土地	17,381	資本剰余金	15,487
建設仮勘定	45	資本準備金	15,487
無形固定資産	1,585	その他の資本準備金	0
ソフトウェア	1,547	自己株式処分差額	0
その他	38	利益剰余金	16,670
投資その他の資産	13,604	利益準備金	667
投資有価証券	4,046	任意積立金	13,202
子会社株式・出資金	1,133	固定資産圧縮積立金	2
長期貸付金	6,334	別途積立金	13,200
敷金・保証金	1,835	当期未処分利益	2,800
その他	335	株式等評価差額金	1,008
貸倒引当金	△81	自己株式	△311
資産合計	99,315	資本合計	46,006
		負債及び資本合計	99,315

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書 (単体) (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)

(単位:百万円)

経常損益の部	科目		金額	
	営業損益の部	高		
	営業収益			120,805
	営業費用			
	売上原価		91,930	
	販売費及び一般管理費		23,425	115,355
	営業利益			5,449
営業外損益の部	営業外収益			
	受取利息及び配当金		291	
	受取入手料		132	
	受取手数料		140	
	その他		204	769
営業外費用	営業外費用			
	支払の利息		231	
			79	310
	経常利益			5,908
特別損益の部	特別利益			
	固定資産売却益		4	
	受取保険金		17	
	投資有価証券売却益		110	
	貸倒引当金戻入益		85	218
	特別損失			
	固定資産除却売却損失		41	
	減損損失		104	
	災害損失		18	
	投資有価証券売却損		19	
	投資有価証券評価損		5	
子会社株式評価損		102		
たな卸資産処分損		519	812	
	税引前当期純利益			5,314
	法人税、住民税及び事業税		2,232	
	法人税等調整額		83	2,316
	当期純利益			2,998
	前期繰越利益			264
	中間配当額			462
	当期末処分利益			2,800

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

利益処分

(単位:円)

当期末処分利益		2,800,364,041
固定資産圧縮積立金取崩額		203,177
計		2,800,567,218
これを次のとおり処分します。		
利益配当金	527,978,544	
	1株につき(24円)	
役員賞与金	50,700,000	
(うち監査役分)	7,700,000)	
別途積立金	2,000,000,000	2,578,678,544
次期繰越利益		221,888,674
(その他資本剰余金の処分)		
その他資本剰余金		93,397
これを次のとおり処分します。		
その他資本剰余金次期繰越額		93,397

(注) 平成17年12月5日に462,059,094円(1株につき21円)の中間配当を実施いたしました。

株式の状況 (平成18年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数	普通株式	29,700,600株
発行済株式総数	普通株式	22,142,106株
当期末株主数		4,928名
大株主の状況（上位10名）		

株 主 名	当社への出資状況		当社の大株主への出資状況	
	持株数	出資比率	持株数	出資比率
有限会社小松安弘興産	5,650千株	25.52%	— 千株	— %
日本トラスティ・サービス信託銀行㈱(信託口)	1,248	5.64	—	—
積水化成成品工業株式会社	1,116	5.04	2,697	2.64
全国共済農業協同組合連合会	622	2.81	—	—
小 松 安 弘	610	2.76	—	—
エフピコ共栄会	517	2.34	—	—
株式会社西日本シティ銀行	440	1.99	343	0.05
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー505019	384	1.74	—	—
日本トラスティ・サービス信託銀行㈱(りそな信託銀行 ㈱再信託分・㈱もみじ銀行退職給付信託口)	381	1.72	—	—
住金物産株式会社	379	1.71	11	0.01

- (注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 筆頭株主の有限会社小松安弘興産は、小松安弘より現物出資を受けた創業家一族の財産保全会社であります。
 3. 株式会社西日本シティ銀行への出資比率は、議決権のない優先株式を除いて算出しております。

自己株式の取得、処分等および保有

- ① 取得株式
 - a. 単元未満株式の買取りによる取得

普通株式	1,310株
取得価額の総額	4,067,650円
 - b. 代物弁済による取得

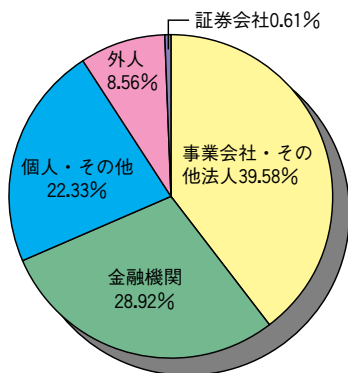
普通株式	3,100株
取得価額の総額	11,718,000円
- ② 処分した株式

単元未満株式の買増請求による譲渡	
普通株式	157株
処分価額の総額	335,313円
- ③ 失効手続きをした自己株式

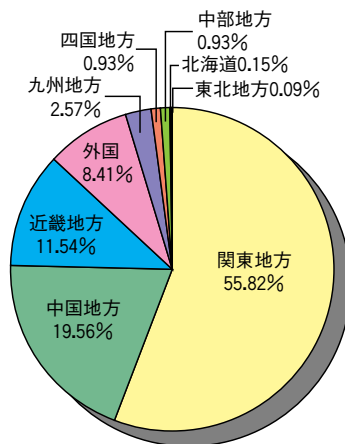
該当事項はありません。
- ④ 決算期における保有株式

普通株式	143,000株
------	----------

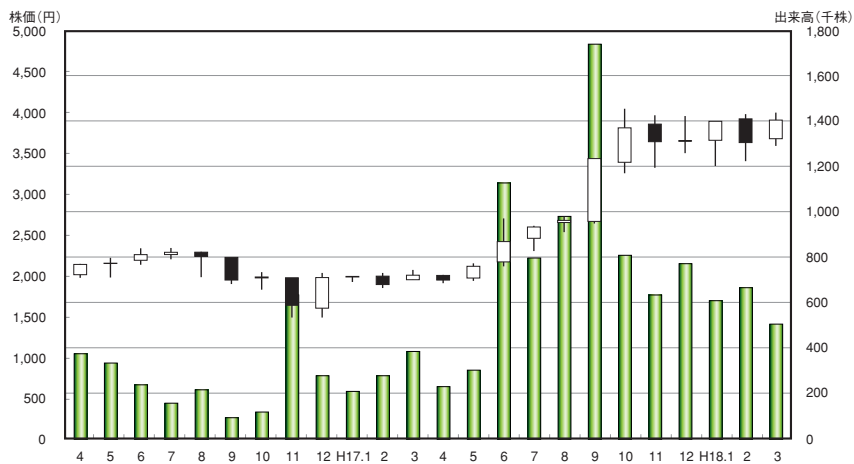
所有者別株式構成



地域別株式構成



株価の推移(大証)



会社の概況 (平成18年3月31日現在)

(1)社 名 **株式会社エフピコ**
FP CORPORATION

(2)設立年月日 昭和37年7月24日

(3)資 本 金 13,150,625,630円

(4)企業集団の主要な事業内容

事業区分	事業及び主要品目
簡易食品容器関連事業	簡易食品容器(トレー容器・弁当容器・折箱容器・紙容器等) 包装資材(業務用ラップ・ポリ袋・レジ袋・FPマット等) 包装機械(エンターパック・ラップ機械等)
商事関連事業	不動産販売事業(不動産販売) 美術骨董品販売事業(刀剣・美術品販売) 金型・機械販売事業(成型金型・機械等)
その他の事業	精密部品成型事業(電気・電子・液晶・LED部品等) 賃貸事業(不動産賃貸・リース・レンタル) 飲食店の経営

(5)企業集団の主要な事業所および工場

①当 社

本 社	広島県福山市曙町一丁目12番15号	
東京本社	東京都新宿区西新宿六丁目8番1号	
大阪支店	大阪府豊中市新千里西町一丁目1番8号	
営業所	札幌(札幌市) 仙台(仙台市) 新潟(新潟市) 静岡(静岡市) 名古屋(名古屋市) 北陸(金沢市) 広島(広島市) 高松(高松市) 福岡(福岡市)	
工場	東北工場(宮城県黒川郡) 関東工場(茨城県結城郡) 関東下館工場(筑西市) 近畿亀岡工場(亀岡市) 福山工場(福山市) 九州工場(佐賀県神埼郡)	山形工場(寒河江市) 関東つくば工場(つくば市) 中部工場(岐阜県安八郡) 笠岡工場(笠岡市) 神辺工場(福山市)
リサイクル工場	北海道工場(石狩市) 関東工場(茨城県結城郡) 福山工場(福山市)	東北工場(宮城県黒川郡) 中部工場(岐阜県安八郡) 九州工場(佐賀県神埼郡)
配送センター	北海道(石狩市) 東日本ハブセンター(茨城県結城郡) 中部(岐阜県安八郡) 福山(福山市)	東北(寒河江市) 東京(船橋市) 関西(西宮市) 九州(佐賀県神埼郡)

(注) ピッキングセンターは、配送センターに含めております。

②子 法 人 等

会 社 名	本 社 所 在 地
エフピコ商事株式会社	広島県福山市曙町一丁目13番11号
株式会社エフピコモダンパック	広島県福山市曙町一丁目13番11号
中国パール販売株式会社	東京都新宿区西新宿六丁目8番1号
エフピコ物流株式会社	広島県福山市箕沖町127番地2
株式会社アイ・ロジック	東京都新宿区西新宿六丁目8番1号
パックドール株式会社(注)	山形県寒河江市大字八楯字南626番地
株 式 会 社 ダ ッ ク ス	千葉県習志野市茜浜三丁目4番5号

(注) パックドール株式会社は、平成18年7月1日に商号を株式会社エフピコ山形に変更予定であります。

取締役および監査役 (平成18年3月31日現在)

代表取締役社長	小 松 安 弘
代表取締役副社長	佐 藤 守 正
専務取締役	下 田 正 輝
常務取締役	笹 部 太 一 郎
常務取締役	貞 弘 勉
取 締 役	瀧 崎 俊 男
取 締 役	上 垣 内 詳 治
取 締 役	池 上 功
取 締 役	土 利 川 泰 彦
取 締 役	安 田 和 之 誠
取 締 役	金 子 誠
取 締 役	小 林 敏 朗
取 締 役	高 西 智 樹
取 締 役	高 橋 正 伸
常 勤 監 査 役	桑 田 忠 典
常 勤 監 査 役	早 崎 幸 夫
常 勤 監 査 役	東 岡 健
常 勤 監 査 役	藤 井 憲 治

新製品紹介

新ひら皿

13種類のサイズバリエーションに5柄の展開で四季を通じた売り場の構成が可能です。



ウェーブ

ウェーブは、トレー4辺をゆるやかなS字曲線にしたもので、一見長方形に見えますが、よく見ると微妙な動感を醸し出している容器です。



フチ皿-300

全体に爽やかなライト感覚の容器ですが、刺身や寿司等の和風食材とよく似合い、抑え気味の色調が食材の鮮度感や見映えを、よりグレードアップします。



新製品紹介

やすき

民具のざるをモチーフにしたやすきは、魚介類をすくい取る際、すくいやすいように容器前面を広くし、手前を狭くしたざる独特の形状を参考にしています。



芝皿

舟型形状なので食材を盛りつけた時に角のスペースが目立たず、商品を大きく見せる事ができます。

ゆったりとした曲線と高蓋形状がお寿司のボリュームを美味しく演出いたします。



APフルーツ角

側面から演出できる少量デザート対応の角型スタンド容器です。

カラフルな食材で売り場を華やかに演出しましょう。



エフピコ・ミニフェア開催

平成18年2月13日に東京国際フォーラム、2月23日にはマイドームおおさか他4か所で『2006年春 エフピコ・ミニフェア』が開催されました。

開場直後から多くのお取引先様にご来場頂き、会場内は積極的に情報収集をされるお客様によって終始活気に溢れておりました。

2006年春 エフピコ・ミニフェア 開催のご案内

鮮魚、惣菜、精肉の全国で売れている事例を再現！
売れている商品や売り場の特徴をセミナーでご説明します。



▲2006年春のミニフェアのイメージ
セミナーは鮮魚、惣菜、精肉について詳しく内容を掲載しております。
特別発表は会場内へ掲載いたします。

全国6会場にて開催

開催時間 10:00～17:00

- 2月13日(月) 東京国際フォーラム
- 2月23日(水) 大阪会場 マイドームおおさか
- 3月2日(木) 仙台会場 仙台卸売センター
- 3月7日(火) 名古屋会場 名古屋国際会議場
- 3月15日(水) 福岡会場 福岡ファッションビル
- 3月23日(水) 札幌会場 サッポロファクトリーホール

展示コーナー 惣菜42尺、寿司24尺、鮮魚30尺、精肉20尺、その他42尺(会場により変更があります)

今、注目の惣菜の売り場を再現



(惣菜は東京会場 西武池袋店)
鮮魚も魚を再現した商品、惣菜の売れ筋が管理費の負担を減らすのに役立ちます。各会場売り場を再現します。

売れる刺身コーナーの品揃えを再現



1.5割増しで販売している売れ筋商品の再現がポイントです。鮮魚から加工品・デザート・デザートの商品も、各会場売り場を再現します。

焼肉、しゃぶしゃぶの売り場を革新



斬新な焼肉、しゃぶしゃぶコーナーの売り場を再現する商品のご紹介ください。

売れる米飯の品揃えを展示



500円以上の売れこたわりの新商品が注目の売れ筋商品です。そして昨季、売上まで売れる米飯の品揃えを再現します。

ミニフェアご案内チラシ

◆セミナーコーナー

昨今の厳しい市場状況の中で、様々な取り組みを通して売上を伸ばしている企業がございます。エフピコではそのような注目企業の実例や声を全国から集め、精肉・鮮魚・惣菜部門における提案をセミナー形式で紹介させて頂いております。

春からの販売戦略のヒントとして是非ご参考にして頂きたいと考えております。

◆ミニフェアについて

エフピコでは2005年秋から2006年2月にかけて約900アイテムもの新製品を上市致しました。この度は、新製品の紹介と合わせて、売れる売り場づくりの提案を多くの皆様に直接お伝えできる様、『ミニフェア』という形での情報発信を実施しております。

また、前回のセミナーよりディーラー様との連携を積極的に進めさせて頂き、ユーザー様に対する情報発信の支援体制を整えております。今回は更に事前勉強会を開催するなど、協力関係がより強固なものになるよう取り組みを進めて参りました。

会場内にはセミナーコーナーと展示コーナーを併設し、二つのアングルからエフピコの提案をさせて頂くことで、春からの売り場づくりにすぐに取り入れて頂きたい最新の情報をよりわかりやすく紹介しております。

セミナー風景

18

◆展示コーナー

今回は冷蔵ケースと木製台を使用して、臨場感溢れる売り場の展示コーナーを展開致しました。

実際の店舗に近い形で提示することで、イメージしやすくなると大変好評をいただいております。約170尺に及ぶ展示コーナーは大きく分けて売り場再現コーナーと情報発信コーナーから成っております。

まず、売り場再現コーナーでは各カテゴリにおける売れている情報を取り入れた売り場展開を紹介しております。

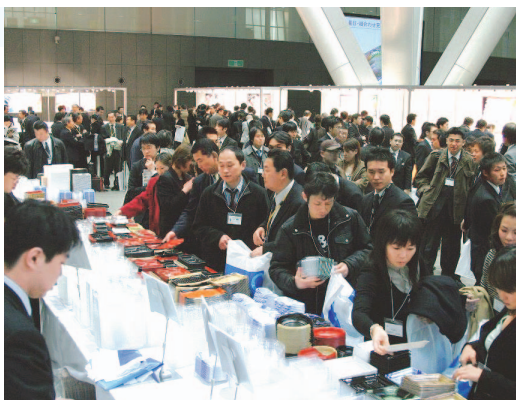
また、セミナー内容と連動させることでエフピコからの提案をより具体的な形で確認頂けるようにしています。

商品陳列に際しましては、多くのスーパー様・ベンダー様にご協力頂きましたが、そのきめ細やかな商品作りにも多くの注目が集められました。実際に商品を手に取り、写真に納め、商品作りを確認される方の姿も多く見受けられました。

加えて、容器シリーズにスポットを当てたRMやA-PET製品の紹介コーナーやSA-400シリーズの広がる使用実例コーナーなど、様々な情報発信コーナーを設け、バラエティーに富んだ展示で店舗作りを多角的にサポートしました。

持ち帰りサンプルコーナーでは、展示コーナーで使用した製品を中心にをご用意しておりますので、ご覧頂いたその日から商品作りに取り入れて頂けます。

皆様方の近くで行なうことで、本部の方をはじめ、実際に容器を使用して日々の商品作りに従事されている店舗スタッフの方々にも、エフピコが紹介する情報や提案に触れて頂きたいと考えております。



サンプルコーナー



惣菜コーナー



HS-500シリーズ



弁当コーナー

TOPICS

笠岡工場 ISO9001認証取得 関東下館工場・近畿亀岡工場も活動中

笠岡工場が、国際規格であるISO9001を当社として最初に認証取得しました。認証取得の審査は、昨年10月21日に初期審査、11月21・22日に本審査が行われ、合格し認められました。当社工場にとって、新たな門出・スタートとなっています。



▲ISO9001認証書：笠岡工場



ISO9001とは、

1. 企業（工場）が、**方針・目標**を定めます。
2. 目標を達成するために、携わる全てのメンバーの**責任と権限**を明確にします。
3. 市場・マーケットで求められている製品を提供するための**仕組み**（業務の流れ）を「品質マニュアル」を頂点とし、各種の作業手順を**文書化（ルール化）**します。
4. 各職場は、そのマニュアル・手順書通りに実行していることを**記録**します。
5. 品質・納期等、マーケットで強い製品を提供し続ける**継続的改善**を行います。

当社になじみやすい言葉で言えば、工場から出荷する容器を、どういう方針・目標に基づいて、どのような順序立てた作業で造っていくかを作業標準書（**ルール**）に定め、そこに書かれている通りにしっかり行っただけという証拠を**記録**として残して、**お客様に安心して頂く規格**です。

認証取得した工場の方々の役割、行うことは四つあります。

- ①工場の方針・目標に基づき、各職場で決めた目標を達成するために日々業務を行う。
- ②お客様が安心して使用でき、また、安全な容器と認めていただける**容器を造る**。
- ③そのためには、決められたルールを守り、ルール通り行った記録を**しっかり残す**。
- ④そして、安心・安全な容器を一層造りやすくできるように、小さなちょっとした改善・工夫を探し見つけて実施し続ける。



▲内部品質監査



▲初期審査

この四つは、笠岡工場に限らず、全ての工場に共通し、実施できることです。また、工場ばかりでなく他の各種部門でも利用することが可能です。業務の充実化・プラスとなる視点を見出すことが有り得るようにも推察します。

ISO9001の認証取得活動は、関東下館工場、近畿亀岡工場でも進んでいます。

最後に、当社笠岡工場のISO9001認証取得は、日経新聞に掲載されていた今年の経済・企業活動のキーワード、「好機」・「スピード」・「責任」にまさに合致し、当社の躍動が確かなものとなるのに繋がると感じています。



▲本審査（クローズングミーティング）

TOPICS

東証一部・大証一部株式上場達成

平成17年9月1日、当社は東京証券取引所・大阪証券取引所の市場第一部銘柄に指定されました。

平成元年11月に広島証券取引所に株式上場以来、かねてより目標としておりました東証一部・大証一部への株式上場の夢が叶い、9月1日は当社にとって記念すべき日となりました。

9月1日、東京証券取引所において、小松社長はじめ関係者が出席し、市場第一部指定通知書贈呈式が行われました。また、翌2日には、大阪証券取引所において、小松社長、佐藤副社長に一部指定通知書が授与されました。

東京証券取引所での贈呈式では、東証アローズマーケットセンターの巨大なガラスシリンダーの円形電光掲示に「祝市場第一部」の文字が表示され、同時に会場内のオープンプラットフォームでは、大画面に「祝市場第一部指定 株式会社エフピコ」の文字が映し出されました。エフピコグループを代表して贈呈式に参加した当社関係者にとっては、本当に感慨深い式典となりました。

日本国内には、百万社を超える株式会社がありますが、その中で一部上場企業はわずか約千七百社です。

従いまして、このたび当社が一部上場企業に指定されたということは、当社が数少ない優良企業の仲間入りをしたということであり、名実共に一流企業になった証であります。

株主・投資家の皆様、ご支援ありがとうございました。



東京証券取引所 鶴島代表取締役社長より一部指定通知書が授与されました。



大阪証券取引所 米田取締役社長より一部指定通知書が授与されました。



東証アローズ マーケットセンターの巨大ガラスシリンダーの円形電光掲示に、「祝市場第一部」の文字が表示されました。

◆一部上場企業として

当社は、第三次成長期の軌道に乗りつつあります。一部上場企業となった今、今後の更なる飛躍を目指して、今まで以上に社会的責任を果たすと共に、良好かつ安定した業績を上げていくことに努めてまいります。

エフピコグループは、一部上場企業として自信と誇り、そして責任を持って、より多くの株主様の信頼を得、また、お取引先のご期待に沿うよう努力を続けていきます。

愛・地球賞 受賞 (Global 100 Eco-Tech Awards)



愛・地球博は、「自然の叡智」をテーマとして、「人類の“わざ”と知恵」、「宇宙、生命と情報」、「循環型社会」の三つのサブテーマを掲げ、企画されました。この国際博覧会を環境に配慮した博覧会とすべく、初めて、環境アセスメントを実施し、会場整備と会場運営の全ての分野で、3Rシステム(リデュース、リユース、リサイクル)の徹底やゼロエミッションを目指し、二十一世紀に求められる新しいエネルギーシステムやCO₂削減などの最先端の環境技術の導入に挑戦し、環境負荷の低い循環型社会のモデルを提示することを目指して進められました。

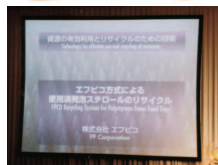
「愛・地球賞」は、こうした人類の取り組みの結晶である地球環境技術の中から、公式参加国・国際機関、博覧会参加都道府県・政令指定都市、審査委員から推薦のあった236件を、愛・地球賞審査委員会が審査し、100件が選定されました。

エフピコは、広島県環境局より推薦を受け、「資源の有効利用とリサイクルのための技術」部門で受賞の栄に浴しました。エフピコが環境技術と環境社会貢献で過去十五年間、消費者・スーパーマーケット・包材問屋様のご協力をいただき活動してまいりました「エフピコ方式のリサイクル(トレーtoトレー)」が国際的にも認められた瞬間です。

表彰式は去る9月1日、ウエスティナゴヤキャッスルで行われ、(財)二〇〇五年日本国際博覧会協会の豊田章一郎会長のご挨拶で始まり、表彰は佐藤副社長が受けました。

その後、受賞パーティーが行われ、小松社長・佐藤副社長は当博覧会協会坂本副会長をはじめ、審査委員の東京大学教授山本良一氏、滋賀県環境生活協同組合理事長藤井絢子氏、環境ジャーナリスト枝廣淳子氏らと談笑し、有意義なパーティーとなりました。

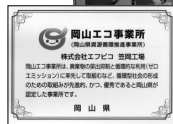
愛・地球賞という大きな賞を受けたことで、今後環境負荷の低い循環型社会のモデルとして「エフピコ方式のリサイクル(トレーtoトレー)」の拡大はもとより、CO₂削減活動、3Rの徹底、ゼロエミッションに取り組んでまいり所存であります。



岡山県エコ事業所認定証授与式

当社の主力工場である笠岡工場(岡山県笠岡市)が、平成17年8月5日、岡山県エコ事業所として認定されました。認定区分は一般事業所、小売店、ゼロエミッション事業所の三種類があり、笠岡工場はゼロエミッション事業所として認定されましたが、その認定基準は次の四項目です。

- ①環境管理システムが構築されていること
- ②ゼロエミッション活動がなされていること
- ③環境報告書等により活動実績が公表されていること
- ④関連法令を順守していること



▲岡山県内野副知事と笠岡工場 田井工場長

現在、岡山県下には今回の認定を含めて176に及ぶエコ認定事業所があり、エコ事業所認定制度はエコ製品認定制度(429品目が認定)と合わせ、他県に例を見ないほど大きな効果をあげており、県内事業者の環境への取り組みは質、量共に益々拡大傾向にあります。10月6日、県庁にて認定証授与式が開催され、内野副知事より、認定企業を代表して田井工場長が認定証をいただきました。

笠岡工場は、六年間に亘る環境管理システムの運用実績がありますが、行政からのこうした認定事業は、従業員が取り組む環境活動に誇りを与えてくれ、士気の向上にも大きく寄与してくれるものと期待しています。

株 主 メ モ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月下旬

基準日

1. 定時株主総会議決権行使株主 3月31日
2. 利益配当金受領株主 3月31日
3. 中間配当金受領株主 9月30日
4. その他必要あるとき あらかじめ公告して定めた日

単元株式数 100株

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(連絡先) 〒171-8508

東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村証券株式会社 全国本支店

単元未満株式の買増制度 1単元(100株)に満たない株式を所有されている株主さままで、買増しをご希望される株主さまは、三菱UFJ信託銀行証券代行部へ、また証券保管振替機構をご利用の株主さまは、お取引口座のある証券会社へお申出ください。

公告掲載 電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。(http://www.fpcoco.jp/)なお、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

上場証券取引所 株式会社東京証券取引所
株式会社大阪証券取引所

お知らせ

1. 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取および買増請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。
2. 配当金を郵便貯金口座へお振込みすることができます。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので株主名簿管理人に指定書用紙をご請求ください。



株式会社エフピコ